

先進的な保健事業(UCHIDA元気LABO)の実証内容

【概要図】 ICTを活用したデータヘルス実証事業



事業目的

加入者へ直接アプローチができる健診・レセプトデータ突合分析機能と連動した
プッシュ型ヘルスケアICTサービスの導入により、
低コストかつ効率的・効果的な保健事業運営およびデータヘルスの実現を実証

実施概要

内田洋行健康保険組合が抱えている保健事業運営の課題

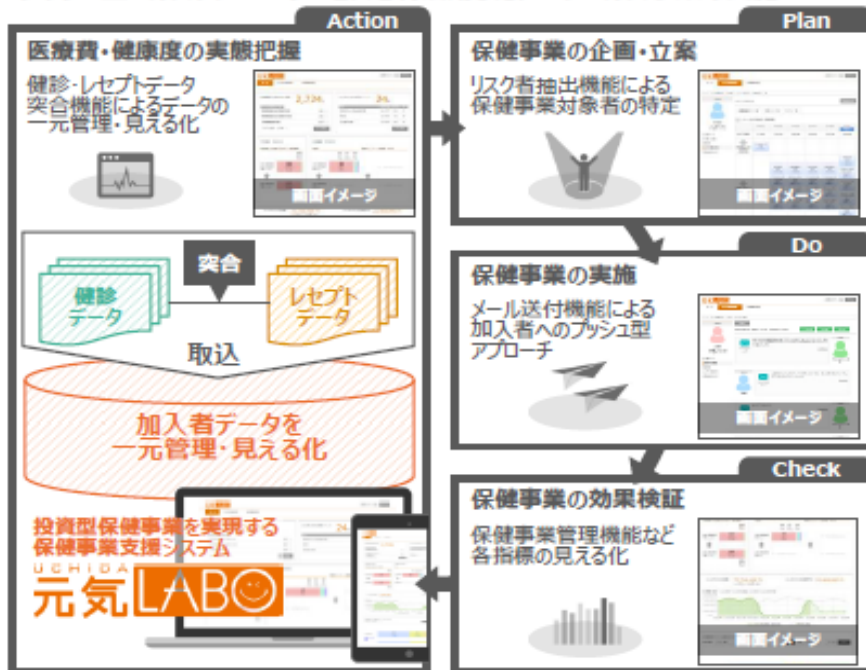


コストの問題
 ~健保財政の悪化~



マンパワーの問題
 ~人的リソースの問題~

プッシュ型ヘルスケアICTサービスを活用したデータヘルス事業の実施



実施状況

アプローチ対象	H25年度		H26年度	
	実施状況	実施率	実施状況	実施率
①喫煙者	未実施		1,029名	962名 93.5%
②肝機能リスク者	実施	429名	404名	94.2%
③血圧リスク者	実施	415名	386名	93.0%
④血糖リスク者	実施	145名	124名	85.5%
⑤脂質リスク者	実施	117名	113名	96.6%
⑥血圧ハイリスク者	実施	24名	24名	100.0%
⑦血糖ハイリスク者	実施	55名	43名	78.2%
⑧脂質ハイリスク者	未実施		15名	14名 93.3%

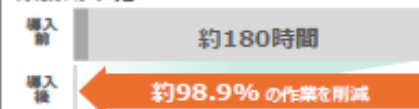
UCHIDA 元気LABO
 本ICTシステム導入により、アプローチ対象を拡充し、
約2,000名に保健介入を実施

事業効果

* 導入前の運用で本事業と同様の保健介入を実施した場合

①対象者の抽出	②メール送信
・作業時間：約12時間 ・健保人件費：約3.6万円 エクセルの関数を用いて5種のリスク者を抽出し、各25事業所別ごとにリスト化。	・作業時間：約167時間 ・外部委託費：約600万円 対象者リストからアドレスを探し出し、対象者約2,000名に対し個別に宛名を入力し、メール送付(2回/年)。
導入後 ・作業時間：約40分 ・健保人件費：約2,000円 対象者抽出機能を使用し、5種のリスク者を抽出。	導入後 ・作業時間：約80分 ・健保人件費：約4,000円 メール送信機能を使用し、5種のリスク者(計2,000名)へ一括でメール送信(2回/年)。

業務効率化



低コスト化

